

1. 略歴

- 1989年3月 東京外国語大学外国語学部スペイン語学科 卒業
1989年4月 東京外国語大学大学院外国語学研究所修士課程入学（ロマンス系言語専攻）
1991年3月 同 修了
1991年4月 Centro de Estudios Literarios, Instituto de Investigaciones Filológicas de la Universidad Nacional Autónoma de México [メキシコ国立自治大学文学研究所文学研究センター] 訪問研究生（メキシコ政府交換留学生として、～1992年2月）
1992年4月 東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程進学（地域文化専攻）
1995年3月 同 単位取得退学
1996年4月 法政大学経済学部助教授
2002年4月 Centro de Estudios Latinoamericanos Rómulo Gallegos [ロムロ・ガリェーゴス・ラテンアメリカ研究センター、ベネズエラ] 客員研究員（～2003年3月）
2004年4月 東京外国語大学外国語学部助教授
2007年4月 同 准教授
2009年4月 東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授（大学院重点化による）
2012年4月 同 教授
2013年10月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2017年4月 同 教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

スペイン語圏の文学、ラテンアメリカ思想文化論。

b 研究課題

知識人たちの環大西洋的ネットワークの形成。

c 概要と自己評価

研究課題である環大西洋地域を横断する知識人たちのネットワークの形成と個々の活動、その表現の様態についての研究は、2020年3月まで科学研究費の研究助成を受けていた。2019年11月に刊行した『テキストとしての都市 メキシコ DF』の一部はこの助成の成果でもある。助成期間は終わったものの、研究はなお進行中である。

d 主要業績

(1) 著書

柳原孝敦、『テキストとしての都市 メキシコ DF』、東京外国語大学出版会、2019、全272頁

柳原孝敦、『映画に学ぶスペイン語』（増補再版）、教育評論社、2021、全160頁

共著、野崎敏・阿部公彦、『新訂 世界文学への招待』、放送大学教育振興所、2022、全284頁中141-174頁担当

共著、越前敏弥ほか、『はじめて読む！ 海外文学ブックガイド——人気翻訳家が勧める世界が広がる48冊』、河出書房新社、2022、全224頁中94-97頁担当

(2) 論文

柳原孝敦、「キャラクター小説論再考——『騎士団長殺し』と上田秋成」、『2020年第9回村上春樹国際シンポジウム 村上春樹における「運命」(Fate) 国際会議予稿集』、淡江大学村上春樹研究センター・淡江大学日本語学科、146-153頁、2020.6

柳原孝敦、「ガルシア=マルケスは誰が読んでいたのか？——1983年、日本」、『れにくさ』11号、82-87頁、2021.3

(3) 研究ノート

柳原孝敦、「ミョルディ・ソレル『負け戦』三部作をめぐって」、『れにくさ』12号、37-52頁、2022.3

(4) 総説・総合報告

柳原孝敦、「マリオ・バルガス=リョサ」、都甲幸治編著『ノーベル文学賞のすべて』、立東舎、2021.9、110-113頁

3. 主な社会活動

(1) 学会

日本ラテンアメリカ学会理事 (研究年報編集担当)、2012.6～2014.5、2020.6～2022.5